

# 一歩

社会福祉法人 アルカディア  
令和5年 8月発行 第58号



## 2022年度決算を読みとる

### ～厳しいときこそ…アルカディアの<底力>をみせるとき～

ニュースレター8月号は決算報告をします。

2022年度決算は、法人アルカディア設立以来の厳しい結果となった。しかし、驚いてばかりはいられない。三年余に及ぶ「コロナ禍」を嘆いても仕方ない。

この厳しい決算に直面し、ニュースレターで取り上げるかどうか迷ったが、法人は、この間「見える化」を進めてきた。その一環として捉えたい。いずれにせよ、<結果は結果>。同時に、このニュースレターを手にする皆さん、「コロナ禍」がそうであったように、福祉の世界にも、何が起きるかわからないし、また、何が起きても決して不思議ではない状況にあることを共有化できれば<不幸中の幸い>です。

報告する決算に関する責は言わずもがなであるが、法人理事長にあることを断っておきたい。そして…。同時にこの苦しい状況を職員一丸となって乗り越えていくことも。

船は既に港から遠く離れた大海原(おおうなばら)を航海している。引き返すこともままならない。

この正念場に立ち向かうには<心意気>が大切。<心意気>とは、私たち、一人一人が<やりたいこと、やるべきことをやっていく>、ただ、それだけのことだ。

(記：理事長・中田)

## 1. 法人本部

### 収入

(単位：千円)

科目	金額	備考
事業活動	243,297	
積立取崩	25,250	
繰入金	584	
小計	269,131	

### 支出

事業活動	252,761	
資産取得	5,560	
償還金	2,784	融資返済等
その他支出	604	
小計	261,709	

収支差額 7,422

収支差額は約750万円であり、黒字決算となっている。しかし、積立金を取り崩しているため、実質的には、約1,800万円の赤字決算。法人として、創設以降、最大級の赤字額であり、気を引き締めていかなければならない状況と読み取れる。しかも、赤字要因を読み取っていく作業は、一筋縄ではいかない。

前文で触れたように、「コロナ禍」の影響を少なからず受けてきた。同時に法人として<対応の不十分さ>もあつたと読み取れる。この両者は互いに交錯しているため、更なる読み取りが必要となるだろう。ただ、<危機意識>をもつながら、法人の<経営的危機>というほど大げさな結果ではないことも併せて報告しておきたい。

## 2. グループホーム

### 収入

科目	金額	備考
事業活動	114,190	
その他活動	34	
小計	114,224	

### 支出

事業活動	104,519	
償還金	3,262	融資返済金
その他支出	44	
小計	107,825	

収支差額 6,399

2022年度決算上は、約640万円の黒字となっているが、請求ミス（複数年度にまたがる約1,200万円）があった。そのため、実質上収支差額がゼロである。また、給付金収入は昨年度（1,130万円）と比してほぼ同額であるが、（請求ミスであった）「加算」が減少するならば、これまで見込まれた収益が目減りすることになる。一定の安定した額の収益を出してきたグループホーム事業であったが、今や、その＜状況＞も終わろうとしている。「国はなんてことを」と嘆いていても仕方ない。＜ハシゴをはずす＞のはいつの時も国（官僚）の＜サジ加減＞ひとつなのだ。

## 3. 援護寮（はばたき）

### 収入

科目	金額	備考
事業活動	53,407	
積立取崩	20,700	
小計		

### 支出

事業活動	73,764	
資産取得	253	
小計	253	

収支差額 90

約2,000万円の赤字決算。主要因については、給付金の減少と読み取れる。昨年度比において約78%である（約1,500万円減額）。

具体的には、＜はばたき＞利用者の減少による結果である。この状況に迅速な対応策を講じられず、歯止めがかからなかったことに集約される。他に人件費や水光熱費等の支出増にも影響を受けた。

＜コロナ禍＞の中で、医療機関における「クラスター」の発生などで、利用に至る計画の変更、中止を余儀なくされるケースも多くみられ、これは不可抗力であった。法人全体で昨年度末から対策及び実施を開始しているところである。

## 4. 就労継続支援B型事業所（麦の家）

### 収入

科目	金額	備考
事業活動	28,603	
繰入金	409	
小計	29,012	

### 支出

事業活動	28,734	
資産取得	270	
小計	29,004	

収支差額 8

少額の繰入金により約40万円の赤字決算。給付金収入は昨年度比では、約150万円の減額。人件費が昨年度比より、24%増大しており、人件費比率は86.6%に達している。このあたりが赤字要因と読み取れる。＜麦の家＞の運営については、かねてより、課題を抱えており、その打開が最優先事項である。＜利用者の安定的確保・工賃ランクアップ＞。法人としての課題でもある。「待ったなし」であることを共有化し、取り組んでいる。

## 5. ふらっと相談支援事業所

### 収入

科目	金額	備考
事業活動	3,610	
小計	3,610	

### 支出

科目	金額	備考
事業活動	1,727	
小計	1,727	

収支差額 1,883

例年、決算状況に大きな変化は見られない。（スタッフの配置により、若干の変動はあるが）



## 6. 委託事業

太田市地域活動支援センターⅠ型（ふらっと）は△約4万円。同じくⅢ型（耕人舎）は△約3万円。アルカディア相談支援事業所は△約14万円という結果である。

### 《総評》

《総評》といっても、2022年度決算報告について、明確な打開策があるわけでない。いくつか思いつくまま列挙してみる。

●福祉法人の過去～現在と今後は？

○「志」（理念）と「現実」との狭間にてあるSTがこう言い残した。

「私は現実主義者で、カスミを食って生きている訳じゃありません。アルカディアより良い条件のところがあるので」と。反論の余地ない正論だった。

それでも「志」は大切だということに＜一点の曇り＞はない。＜志と現実＞は両立する（少なくとも＜させよう＞とする）ものだから。

○若い人たちには通用しないかもしれないが…

「昭和30～40年代が良かった」と高齢層はよく言う。当時、庶民は＜敗戦から復興＞へとひたすらに汗を流して働いていた。夏休み、子供たちは炎天下にもかかわらず一日中遊びまわった。庶民は「清く、貧しく、美しく」を胸に秘めて。「ジイさん、ナニ言いたいのか」って？

「世の中、便利になり過ぎた、スマホやパソコン、ゲームなしで貴方は生きていけますか？」ってことかな。しかし…。時を後戻りさせることはできないから、＜多様な価値観＞を

許容しつつ若いも若きも共通項を求めてやっていくしかない。

○市場競争の渦中にて

民間企業が＜障がい者福祉＞の領域に「相当数」進出してきていると聞く。この社会～資本主義経済の下では、儲かると判断すれば、資本が投入され、事業が起ち上げられる。反面、儲からないときは撤退する。この状況の良し悪しを論じては仕方がない。

ともあれ、そういう「時代状況」を生き残ろうとしている。冒頭で述べたように、船は出港しているのだから、引き返すことはできなが、時々、港に寄って、休んだり、燃料補給したりすることが必要だ。

●国の無策を嘆いても仕方ないのだが…

○総合支援法の落とし穴

障害福祉に医療と同様な（診療報酬）システムを導入したこと。この法の＜落とし穴＞は、基本単位を動かさず、加算をいじることにある。そこでは「生かさず、殺さず」という無慈悲な考えが基本となる。愚痴を百回繰り返しても致し方ないのだが、誰かがこのシステムに楔（くさび）を打ち込まなければ…

○ある程度の＜内部留保＞は必要不可欠

2022年度は大幅赤字であったことは既に報告したとおり。でも、法人にはこれまで蓄積してきた内部留保（積立金）があったから、なんとか凌（しの）げた。この内部留保がなかったら…と考えると恐ろしくなる。せめてチマチマと内部留保金を貯められるくらいの創意工夫をしていかなければ…

●それでも法人アルカディアは＜我が道＞を行く

○モハメド・アリはとこう言った

かつてヘビー級チャンピオンだったアリ（当時、タイトルマッチのファイトマネーは、15億、20億と噂され、彼には予想もつかない金が入っていた）は、インタビューに答えて、かみしめるように言った。

「手に入らないモノなどないだろうって？ オフクロがつくってくれたビーンズ（大豆）のスープ、あれほどうまいものなかった、今でも世界でサイコーの食べ物だ。もう一度食べたい…」と。この言葉に説明は無用。金はたいていのことを解決してくれるが、金で手に入れることができないモノもあるのだから…。私たちは、＜目に見えない何か＞を追い求めているのだろう。

○福祉の＜原点＞を求めて

「＜障害者福祉＞って、大変ですネ。障がい者を相手にする仕事だから」。この言葉もよく耳にする。でも、＜障害福祉＞って特別なものではない。人は、困ったとき、誰かに助けてもらいたいと思う。これって当たり前のこと（であるはず？）。障がいがある、なしに関わらず。

だから、法人アルカディアは、一步でも前に進んでいく。当たり前のこと＞をやるために。たとえ、＜道なき道＞だとしても…。

○でも、金は欲しい

人はよく、こう言って＜夢心地＞に浸ろうとする。「一億円、宝くじで当たったら何につかおうか？」って。アルカディアも三億円位ほしい…。けれど、昔から言う、「金は天下の回りもの」だって。

以上、思いとは裏腹に、くだらない《総評》になってしまい、失礼しました。

## 【編集後記】

社会福祉法人の運営には様々な課題が存在します。効率的な運営、経済的な節約、人手不足など、これらの問題に対処するためにはより綿密な対策と支援が求められます。本記事はそうした社会福祉法人が直面する課題と可能性を浮き彫りにしてそれらを総評しています。今後、社会福祉法人の活動をより理解し、自らの地域社会における支援の手段として検討して頂けたら幸いです。

編集委員会



## 利用者インタビュー

（編集部：中田）

・事業所を利用してよかったこと：【麦の家】

Aさん(20代男性)：「(朝ミーティング時)みんなの前に立って、1分間スピーチが出来ること。自分の話を聞いてくれる感じがして嬉しい」「トイレ掃除に行くのが良いかな。自分が掃除して、公園がキレイになるのが楽しい」「後は活動！みんなで絵をかいたりDVD観たり、音楽聞いたりしておもしろい！」

Bさん(40代女性)：「周りの人たちがみんな親切で、毎日来て仕事が一生涯懸命出来て毎日楽しい」「誰と話しても話しやすく嬉しい！職員たちも親切で(笑)」「作業も自分の好きな作業、得意な作業が出来たのでよかったです」

Cさん(50代男性)：「職員さんが丁寧に仕事を教えてくれるのでいい！わからなくなったら、聞ける」「職員さんや利用者さんと趣味の話が出来て嬉しい。ラジオもかかっているから、リラックスして仕事出来るしね。TVの話とか」「同じ通う人たちがいて、友達になれるし、話も出来て合う人たちばっか、良いところだよ」

有難い言葉ばかりで大変うれしいです！

法人本部：群馬県太田市鶴生田町733-123  
TEL：0276 (20) 2509 FAX:0276 (20) 2510  
ホームページ：http://arcadia-gr.com/